

平成19年度東北農政局長賞

『小原地区活性化推進協議会』 宮城県白石市

【位置】



【むらづくりの経緯・動機等】

・小原地区は、過疎化・高齢化の進展により農地荒廃が進んだ。地区の現状や将来について話し合う中から、農林業の復興や地域資源を活かした地域づくり構想が策定される。

・10年後の将来ビジョンを策定し、それを具現化するため協議会を設立する。地域資源を活かした農産物の生産・加工、直売所や農家レストラン開業に向けた活動が始まった。

・そば生産を本格化するため機械

利用組合を設立し、農地集約や栽培農家の育成に努めるとともに、そばを使った特産品を考案するなど、生産と販売を結びつける取り組みを推進する。

・行政との連携により、観光施設に併設して直売所や茶屋の設置を実現した。

【推進体制】

・協議会の下に3つの部会（食部会、地域づくり部会、地域資源部会）を置き、専門的かつ組織的に活動を推進している。

・食部会では、高収益・高付加価値型農業の実現、地域づくり部会では、担い手育成と地域間交流の促進、地域資源部会では、環境や伝統文化等の維持保全への活動を推進する。

・行政機関やJA等団体と連携し、マイスター派遣や売上金の口座開設振込手続き等活動の支援を受ける。

【地区の概要】

項目	内容	
規模	旧市町村単位 (14集落)	
性格	山間農業地域	
農家率 (内訳)	総世帯数	46 % 429 戸
	農家数	199 戸
販売農家数 (内訳)	専業農家	116 戸 22 戸
	I兼農家	9 戸
	II兼農家	85 戸
主要作物 (産出額)	水稻	(百万円)
	果樹	不明 (百万円)
	肉用牛	(百万円)
農用地の状況 (内訳)	耕地計	90 ha
	田	60 ha
	畑	17 ha
	樹園地	— ha
	牧草地	7 ha
	耕地率	1.1 %
	1戸当たり面積	0.6 ha

【生産面への寄与状況】

・そば機械利用組合を中心に休耕田にそばを作付けし、耕作放棄を未然に防ぐとともに、そば栽培面積を拡大している。

・草刈り、農道や水路の補修作業を行うなど、中山間地域における多面的機能の維持・増進が図られ、営農組織の育成や自律的かつ継続的な農業生産活動の体制整備に向けた取組を推進する。

・直売所を設置し、生産した米や野菜、



休耕田でのそば作付け

農産加工品等を販売する。少量生産のため市場出荷できない生産者の生産意欲の向上とともに、遊休農地の抑制につながっている。また、「生産者の顔が見え、安全で安心な農産物。しかも新鮮」と消費者から好評を得ている。

・モクズガニやカワエビの人工飼育や、特産だった寒くずの生産復活を手がけるなど、地区の特産品づくりに取り組む。



小原いきいき直売所

【生活・環境整備面への寄与状況】

・指定管理者制度導入により共同浴場「かつらの湯」の管理運営を担う。また、公園のトイレ清掃や植木剪定作業を委託される。

・直売所や茶屋の設置は、地域の観光資源として都市住民に親しまれている。また、稲づくり体験やそば打ち体験を受け入れるなど、農業体験を受け入れながら都市との交流を深める。

・直売所等には女性の参加が多く、各種イベントでは、地域の特産品を使った料理を提供する等女性の社会参加に積極的に取り組んでいる。



モクズガニを使った「カニはっと汁」